神戸大学 地域連携事業 (令和6年度)

医療過疎化に向かう地域での医療資源の有効活用と住民健康管理におけるイノベーション創出
～アカデミアンによる新たな地域連携活性化支援モデルの探索～

科学技術イノベーション研究科 先端医療学分野・教授・山下智也

取組事業の概要　兵庫県を含む日本全体で、医療提供施設がダウンサイジングし、医療過疎化と向き合う地方自治体が益々増加していく。そのような市町村(支援する加西市＝市立加西病院)では、さらなる効率的医療サービスの提供と健康管理法の提案と普及が必要となるが、病院縮小課程はnegativeな印象が目立ち、positiveでsoft landingなダウンサイジングの活性化支援モデルケースはあまり無く、地域住民目線を尊重した良いモデルを模索していく必要があると考える。神戸大学として、規模縮小病院・医療過疎化自治体への連携支援の実績は、あまりない。

本事業の目的は、医療過疎化に向かう地域での医療資源の有効活用と住民健康管理において神戸大学として連携支援の方法を検討し、アカデミアンとして適切な地域支援の方法を探索し、新規でイノベーティブな活性化支援モデルを確立して、公表/情報提供することである。

令和6年度事業実施内容

1. 医師以外の医療従事者・職員に調査(マーケティング)を実施　(2024年6月に実施　8/23に訪問)
   病院のダウンサイジングでの建替えに対してnegativeな意見/気持ちを持つ職員が多いこと.
   その他にも、報告書に記載するいくつかの気付きを元に、解決方法を考えて職員と相談した.
2. 院内学会で今後の取り組みについて説明（10/25 未来の地域医療はどう変わるのか？）
   ①心理的安全性（「**関係の質**」）の上昇を2024年度の課題とする.
   ②次の段階として、「**思考の質**」の上昇のための下地を作ること.
   2025年度に「思考の質」の上昇に取り組むことで、結果として「**行動の質**」の上昇につながり、その後に「**結果の質**」が上昇し、病院として目指す結果となる.
3. コーチングの専門講師による講義・セッション（2024/12/21）
   心理的安全性の上昇のために専門家の講義とセッションを提供した.

4. リハビリテーションの専門家の講義と協働についての情報共有（2025/2/26）
   2024年度の取り組みの一つとして、リハビリテーション科の理学療法士の活躍の必要性/重要性を共有し、若手職員に主体的に未来を見据えての病院の形やあるべき姿を考える機会をつくった.
5. 上記に関連する書籍を提供し、職員が主体的に自ら学ぶ機会を作る.

達成目標
（想定している必要な変化）
「成功循環モデル」の実践からの職員の変化/成長

2024年度達成目標
心理的安全性↑　関係の質↑
思考の質↑
➡ **行動の質↑** ➡ **結果の質↑**
次年度の取り組み（予定）

現場でしか感じられない本質的な(解決すべき、解決できる)問題点＝イシューを見出し、その解決を目指す.　加西病院（それぞれの部署）のValueは何か？　新たな価値の創造.
職員からの主体的な行動での変化誘導.　リスキリングによる職員の価値の向上.

まとめ：2030年の病院の建替えに向けて、継続した“人”への活性化支援が望ましいと考えた.　令和7年度も、予定通り「思考の質」の向上を目指した支援を継続して実施する.（予算の継続申請予定）
令和7年度は、職員のみならず、市民への情報共有/マーケティングを実施したい。